

2009年10月29日

報道関係各位

新型インフルエンザのパンデミックに備えた事業継続ワークショップを開催

総合物流のバンテック（本社：横浜市、山田敏晴社長）は10月29日、横浜市内の本社において、新型インフルエンザの大流行（パンデミック）に備えた「事業継続ワークショップ」を開催しましたのでお知らせいたします。

このワークショップは、巨大地震等の大規模自然災害発生という緊急事態に直面した経営幹部が、円滑な事業継続のため、的確かつ迅速な判断能力を養うことを目的としたものです。今回は新型インフルエンザ対応策の一つとして初めて開催するもので、本社の部長クラスおよびグループ会社の役員ら30人が参加しました。

本ワークショップは、今年5月に実施した「新型インフルエンザ発生時の事業継続計画に関する社内調査」の結果に基づき、クロスロード※と呼ばれるゲーム方式で行いました。社内調査をもとに現実起こりうる緊急事態を想定し、その対応について「はい」、「いいえ」の二者択一で意思決定するものです。4つのグループに分かれた参加者全員がどちらかを選択し、選択した理由を討議してグループごとに発表し、緊迫する状況下における判断力を磨く内容です。

「インフルエンザの感染を恐れて入社拒否をしている社員に出勤を命じるか否か」や「強毒化したインフルエンザの流行国にいる海外派遣社員の帰国を認めるか否か」など、全部で9つの設問を設けて議論しました。

当社は「新型インフルエンザ発生時の事業継続計画に関する社内調査」を踏まえて、年内にも具体的な「事業継続計画」を策定する方針です。すでに新型インフルエンザが大流行の兆しを見せていることから、緊急時の対応力を養うことが喫緊の最重要課題と認識しており、今回のワークショップのような経営層に向けた訓練を繰り返しながら、危機管理対応能力を高めていく方針です。

※クロスロードとは

阪神・淡路大震災での神戸市職員の実体験をベースとして、災害時の対応をシュミレーションするカードゲームです。講師がさまざまな状況を設定した問題カードを読み上げ全員が「イエス」または「ノー」のカードを出し、その回答した理由をグループ内で語り合い、結論を発表するゲームです。

この件に関する問合せ：株式会社バンテック経営企画部
佐藤または市川
TEL : 045-410-0843